

地域医療構想推進シート

令和 6 年度

区域名

宗谷

1 地域医療構想の実現に向けた取組の方向性

医療機関の機能(診療科)や体制(救急医療体制等)が一部重複していることによる役割分担等に向けた取組	現状・課題	医療機関の機能が一部重複していることから、高齢化の進展や人口構造の変化に伴う疾病構造等ニーズに合った医療提供体制の見直しや役割分担の検討が必要である。
	目指す姿	適切なリハビリテーションが受けられるよう、必要な回復期病床の確保を目指すとともに、病床機能に応じた医療従事者配置による限られた医療人材の有効利用等による、バランスのとれた医療提供体制の構築を図る。
急性期医療を受けた後の患者の受け皿となる医療機能(回復期病床)の確保に向けた取組	現状・課題	今後、高齢化の進展に伴い、在宅復帰に向けたリハビリテーションのニーズが増加し、急性期医療を受けた後の患者の受け皿となる回復期病床が不足することが想定される。
	目指す姿	過剰となっている病床機能からの転換を促し、地域医療介護総合確保基金の有効活用などにより、必要な回復期病床の確保を図る。
限られた医療資源(病床や医療従事者等)を有効に活用するための医療機関の再編統合等に向けた取組	現状・課題	宗谷地域では、地理的要因及び病院数等を勘案し、稚内地域及び利礼地域では市立病院を中心とした医療の確立が、南宗谷地域では上川北部地域との連携体制の確立が必要である。
	目指す姿	2025年に必要な病床数の確保に向け、病床機能や病床数の見直し、再編統合、医療連携等について、地域医療構想調整会議における協議を進め、宗谷地域の実情に応じた医療提供体制の構築を図る。
高齢化の進行に伴い、住み慣れた地域や自宅での生活を支えるため、その受け皿となる在宅医療等の確保に向けた取組	現状・課題	宗谷地域は、医師をはじめとした医療従事者数が全道平均を大きく下回るなど、医療資源が顕著に乏しく、また、離島及び山間へき地などの広域分散型集落の地域性のため、在宅医療が進まない状況である。
	目指す姿	在宅医療の提供体制の充実を図るため、医師はもとより、看護師等の医療・介護従事者の確保のほか、医療機関や関係団体等の連携、地域住民の在宅医療に対する理解の促進のための普及啓発を図る。 また、地域医療介護総合確保基金等を活用しながら、患者の生活の場である日常生活圏域での在宅医療の提供体制の整備を図る。
地域(市町村)における高齢者の住まいの確保等に向けた取組	現状・課題	高齢者にも提供される公営住宅や中心市街地におけるサービス付高齢者向け住宅の整備などが進められているが、今後も高齢者の増加が見込まれるため、必要に応じて高齢者が安心して暮らすことのできる住まいの確保を図る必要がある。
	目指す姿	今後、単身高齢者や認知症高齢者の増加も見込まれることから、サービス付高齢者向け住宅やグループホーム等の施設整備をはじめ、これらの方々を支える住まいの整備や地域住民の連携体制の構築を図る。

2 圏域内における医療機能及び他圏域との連携等の必要性

区 分	指定医療機関等の名称	連携・協議が必要な圏域名 (自圏域での対応が困難な疾病等)	
5 疾病	がん		上川北部、上川中部
	脳卒中	【脳卒中の急性期医療を担う医療機関】 社会医療法人禎心会 稚内禎心会病院 【脳卒中の回復期医療を担う医療機関】 社会医療法人禎心会 稚内禎心会病院、市立稚内病院、浜頓別町国民健康保険病院、利尻島国保中央病院	
	心筋梗塞等の心血管疾患		上川北部、上川中部
	糖尿病	【糖尿病の医療機能を担う医療機関】 市立稚内病院、市立稚内こまどり病院、社会医療法人禎心会 稚内禎心会病院、道北勤医協宗谷医院、クリニック森の風、えきまえ診療所、猿払村国民健康保険病院、浜頓別町国民健康保険病院、中頓別町国民健康保険病院、枝幸町国民健康保険病院、豊富町国民健康保険診療所、北海道立香深診療所、利尻島国保中央病院、北海道立鬼脇診療所、幌延町国民健康保険診療所、幌延町問寒別国民健康保険診療所	
	精神医療	【精神疾患の医療機能を担う医療機関】 市立稚内病院	
救急医療	【二次救急医療機関】 市立稚内病院、社会医療法人禎心会 稚内禎心会病院、猿払村国民健康保険病院、豊富町国民健康保険診療所、浜頓別町国民健康保険病院、中頓別町国民健康保険病院、枝幸町国民健康保険病院、幌延町国民健康保険診療所、利尻島国保中央病院、礼文町国民健康保険船泊診療所		
災害医療	【北海道災害拠点病院】 市立稚内病院 【北海道DMAT指定医療機関】 市立稚内病院		

6 事 業	周産期医療	【周産期医療センター】 市立稚内病院	
	へき地医療	【へき地医療拠点病院】 市立稚内病院	
	小児医療(小児救急医療)	【小児救急医療支援事業参加病院・北海道小児地域医療センター】 市立稚内病院 【小児科又は小児外科を標ぼうする医療機関】 市立稚内病院、クリニックはぐ、南稚内クリニック、枝幸町国民健康保険病院、 浜頓別町国民健康保険病院、豊富町国民健康保険診療所、利尻島国保中央 病院、香深診療所	
	新興感染症発生・まん延時における医療	【医療措置協定締結医療機関】[病院]市立稚内病院、枝幸町国民健康保険病 院、猿払村国民健康保険病院、中頓別町国民健康保険病院、利尻島国保中 央病院、社会医療法人禎心会稚内禎心会病院 [有床診療所]礼文町国民健 康保険船泊診療所、幌延町国民健康保険診療所、クリニック森の風、豊富町 国民健康保険診療所[無床診療所]利尻富士町国民健康保険船泊診療所、道 北勤医協宗谷医院、北海道立鬼脇診療所、クリニックはぐ、医療法人社団オロ ロン会南稚内クリニック[薬局]福岡薬局、日本調剤稚内中央薬局、えびす薬 局、枝幸調剤センターエルム薬局、センター薬局浜頓別店、えびす薬局豊富 店、ミント調剤薬局稚内店、調剤薬局ツルハドラッグ稚内新光店、レインボー フォレスト薬局、菅原薬局、ユアーズ調剤薬局、えびす薬局駅前店、すずらん 薬局中頓別店、アイン薬局稚内店、アイン薬局、アイン薬局稚内末広、小竹調 剤薬局、ファーマシーサエキ、調剤薬局ツルハドラッグ稚内栄店、調剤薬局ツ ルハドラッグ稚内潮見店、大谷薬局、調剤薬局ツルハドラッグ南稚内店[訪問 看護]一般社団法人北海道総合在宅ケア事業団稚内訪問看護ステーション、 訪問看護ステーションやすらぎ、一般社団法人北海道総合在宅ケア事業団枝 幸訪問看護ステーション、訪問看護ステーションこはく	
在宅	在宅医療	【在宅療養支援診療所】 道北勤医協宗谷医院	
外来	紹介受診重点医療機関		
そ の 他	地方センター病院		
	地域センター病院	市立稚内病院	
	地域医療支援病院		
	特定機能病院		

3 将来的に不足することが見込まれる医療機能の確保対策等

(1) 病床の現況及び2025年の見込み[医療機能別]

※医療機能別の結果は別紙参照

必要病床数 (2025(R7)年推計)	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟等 (今後再開)	休棟等 (廃止)	合計	区域内の現況、取組の方向性等	
	28床	127床	271床	156床	0床	0床	582床		
参 考	病床機能報告 R5.7.1	0床	381床	125床	112床	84床	0床	702床	急性期が過剰となっており、回復期の不足が見込まれる。病床機能報告制度により、医療機関の各機能の選択状況を把握しながら、将来必要な医療機能の確保について取り組みを進める。
	意向調査 R6.7.1	0床	354床	139床	75床	130床	0床	698床	
	前年比	0床	▲27床	14床	▲37床	46床	0床	▲4床	
	(許可病床) 2025	0床	337床	151床	98床	107床	0床	693床	
必要病床数-2025	28床	▲210床	120床	58床	▲107床	0床	111床		

(2-①) 不足することが見込まれる医療機能の把握等

不足することが見込まれる医療機能	病床機能報告以外に、将来的に不足する医療機能(患者数)を把握する方法等
回復期	調整会議による協議、検討等により把握。

(2-②) 不足することが見込まれる医療機能の確保対策(令和7年度以降の計画も含む)

No.	医療機関名	予定時期	病床機能転換の内容	整備等の概要
			慢性期 床 → 慢性期 床 基金の活用 調整会議での説明	

(2-③) 不足することが見込まれる医療機能の確保に向けた取組目標及びスケジュール

医療機能	取組目標	スケジュール											
		H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7			
回復期	調整会議等における協議・検討												
	不足することが認められる回復期病床の確保												

(3-①) 医療機関の再編統合等に向けた動き

区分	開始時期(予定)	構成医療機関	主な目的
病院、診療所との役割分担・連携	平成15年度	市立稚内こまどり病院	急性期を担う市立病院の後方支援病院として、慢性期患者を受け入れるため
地域医療連携推進法人		現時点で予定なし	

(3-②) ICTを活用した地域医療情報連携ネットワークの整備状況(令和6年度以降の計画も含む)

No.	ネットワークの名称	整備年度	基金の活用	概要	登録団体・施設等
1	精神科遠隔診断	平成13年度	無	市立稚内病院と礼文町国民健康保険船泊診療所と情報通信機器で結び、市立稚内病院の医師が遠隔により診療を行っている。	市立稚内病院 礼文町国民健康保険船泊診療所
2	眼科遠隔画像診断	平成24年度	無	眼科学的検査のうち精密遠隔診断で行う精密眼底検査、汎網膜硝子体検査等を市立稚内病院と旭川医科大学を結び遠隔診療を実施している。	旭川医科大学 市立稚内病院
3	道北北部医療連携協議会(ボラリスネットワーク)	平成25年度	有	複数の医療・介護施設等をインターネット回線で接続し、診療情報、画像・検査情報の共有化と遠隔診断、救急患者トリアージを行う。	【公開型】 名寄市立総合病院 市立士別総合病院 町立下川病院 市立稚内病院 猿払村国民健康保険病院 枝幸町国民健康保険病院 浜頓別町国民健康保険病院 【参照型】 しべつ内科クリニック 吉田病院 名寄東病院 名寄三愛病院 名寄市風連国保診療所 たに内科クリニック 音威子府村立診療所 中川町立診療所 興部町国民健康保険病院 西興部厚生診療所 中頓別町国民健康保険病院 幌延町国民健康保険診療所 豊富町国民健康保険診療所

4	レントゲン遠隔読影診断	平成26年度	無	北海道大学と市立稚内病院を結び、市立稚内病院で撮影した画像を送信し専門医により診断する。	北海道大学 市立稚内病院
5	遠隔相談TV会議システム	平成27年度	無	旭川医科大学と市立稚内病院を結んで医療遠隔相談を行う。	旭川医科大学 市立稚内病院
6	ペースメーカー遠隔モニタリング	平成27年度	無	ペースメーカー埋め込み患者に対して、患者宅と病院を電話回線でつなぎ、PCでデータ管理を行うことによりペースメーカーの状況を把握する。	市立稚内病院 ペースメーカー使用者
7	あいねっと禎心会	平成29年度	有	ICTを活用した情報ネットワークシステム。利用者(患者)を中心としたグループを形成し、ネットワークの中で医療・介護情報を共有することで、在宅医療において安全で高品質な医療を提供するとともに、より良い在宅生活を支援するための取り組み。	稚内禎心会病院 老人保健施設ら・ぶらーさ ヘルパーステーション優 稚内市南地区居宅介護支援事業所 稚内市南地区在宅介護支援センター めぐもり 株式会社ケイト(訪問介護ステーション)
8	バイタルリンク	平成29年度	一	多職種間で、バイタルリンクシステムを利用することにより、情報の登録や観覧が可能。リアルタイムで患者の情報を確認・共有する。これまで分散していた医療・介護情報の一元管理が可能となり、データの経時的な蓄積・管理が可能となる。	利尻島国保中央病院 利尻町 利尻町社会福祉協議会 利尻町高齢者生活福祉センター 菅原薬局 ファーマシーサエキ 訪問看護ステーションやすらぎ 特別養護老人ホームほのほの荘
9	手術支援TV会議システム	令和元年度	無	旭川医科大学と市立稚内病院を結んで手術支援を行う。	旭川医科大学 市立稚内病院
10	アンギオ双方遠隔支援システム (Kizuna Web)	令和2年度	無	出張医が市立稚内病院で緊急心臓カテーテル治療を行う際に、名寄市立総合病院・循環器内科と、医療用映像通信システムを利用して、リアルタイムにアンギオ透視画像や、心電図等のモニター画面を伝送することにより、画像や音声を双方向で共有、専門医のサポート下で、より安全に治療を行う体制を構築している。	名寄市立総合病院 市立稚内病院
11	遠隔妊婦健診システム (Kizuna Web)	令和2年度	無	産科医師が不在の礼文島の妊婦を対象に、医療用映像通信システムを利用して、遠隔妊婦健診を行っている。離島からの通院は身体的・経済的にも負担がかかるため、通院負担軽減が図られる。	市立稚内病院 礼文町国民健康保険船泊診療所
12	枝幸町地域包括ケアネットワーク	令和3年度	有	2025年問題に向けた医療介護体制の整備が急務であり、枝幸町国民健康保険病院と町内各事業所を医療介護連携ネットワークで結び、医療と介護連携に対応することで、一元的な患者情報の共有を行う。(ポラリスネットに接続)	枝幸町国民健康保険病院 特別養護老人ホーム枝幸苑 特別養護老人ホーム歌翠園 枝幸町介護支援総合事業所 枝幸訪問看護ステーション 枝幸町保健福祉課
13	遠隔診療システム「Kizuna Web」	令和3年度	無	札幌市の泌尿器専門病院と豊富町国民健康保険病院とを情報通信機器で結び遠隔専門診療を行っている。	豊富町国民健康保険診療所 三樹会泌尿器科病院
14	ワイズマン地域医療連携システム	令和3年度	無	ケアプランに基づく在宅支援において、多職種間での医療情報の共有が可能となり、切れ目のない適切な支援の提供を行うことができる。	豊富町国民健康保険診療所 豊富町地域包括支援センター 豊富町社会福祉協議会指定居宅介護支援事業所
15	遠隔医療システム (caseline)	令和4年度	有	名寄市立総合病院循環器内科とICT機器で繋ぎ、診療に必要な情報を共有することで、名寄にいる医師が、対面診療と同等の品質で、市立稚内病院の外來診療並びに救急医療支援を行うもの。	名寄市立総合病院 市立稚内病院
16	救急版遠隔医療システム (JOIN)	令和5年度	無	ICTを活用し、市立稚内病院の遠隔救急医療支援及び入院病室における遠隔重症患者管理支援を行うもの。	旭川医科大学 名寄市立総合病院 市立稚内病院

(3-3) 医療機関の再編統合等の取組目標及びスケジュール

取組目標	スケジュール								
	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
2025年の必要病床の確保を図る	→								
ICTを活用した診療情報共有、診療支援の推進	→								

(4) 非稼働病床への対応

年次	病床機能報告制度		圏域における対応	
	非稼働病床数	前年比	検討内容	取組内容
H28	43床			
H29	63床	20床	—	—
H30	53床	▲10床	市立稚内病院においては、常勤医師確保及び看護師の実勤務人数が確保され次第、病棟の再稼働を検討。	医師及び看護師対策に努めている。
R1	43床	▲10床	市立稚内病院においては、常勤医師確保及び看護師の確保に加え、地域包括ケア病棟等への機能転換を含め検討。	医師及び看護師確保対策に努めるとともに、地域包括ケア病棟等への機能転換について検討を進める。
R2	52床	9床	市立稚内病院においては、常勤医師確保及び看護師の確保に加え、地域包括ケア病棟等への機能転換を含め検討。	医師及び看護師確保対策に努めるとともに、地域包括ケア病棟等への機能転換について検討を進める。
R3	43床	▲9床	市立稚内病院においては、地域包括ケア病棟等への機能転換について検討を進める。 猿払村国民健康保険病院においては、療養病床の介護医療院への転換及び早期診療所化も含めた適正な医療のあり方を検討し、効率的な病院改築を進める。	医師及び看護師対策に努めるとともに、各機関において適切な医療提供体制の検討を進めている。
R4	84床	41床	市立稚内病院においては、地域包括ケア病棟等への機能転換について検討を進める。 市立稚内こまどり病院においては、市において医療提供体制のあり方が検討されており、市担当部局等と協議を進める。 猿払村国民健康保険病院においては、療養病床の介護医療院への転換及び早期診療所化も含めた適正な医療のあり方を検討し、効率的な病院改築を進める。	医師及び看護師対策に努めるとともに、各機関において適切な医療提供体制の検討を進めている。 市立稚内こまどり病院については、入院病床の休床に伴う影響が地域医療全体に及ばないよう、関係機関と連携を図る。
R5	84床	0床	市立稚内病院においては、休止病棟(5階北39床)及び休止病床(6階23床)の廃止検討。 市立稚内こまどり病院においては、今後の医療提供体制について検討中である。 猿払村国民健康保険病院においては、病床機能の転換～療養病床の介護医療院への転換及び診療所化も含めた適正な医療のあり方を検討し、効率的な病院改築を進める。 枝幸町国民健康保険病院においては、今後、看護師の夜勤体制の維持が困難になった時点で、慢性期23床の休床等を検討する。 豊富町国民健康保険診療所においては看護師不足により、診療体制維持が非常に厳しくなっている状況。外来の午後休診をはじめ、病床の休止などを検討中である。	市立稚内病院においては看護師充足することが困難なため、休止病棟を廃止し、用途変更する方向で検討中。 市立稚内こまどり病院においては、地域医療全体に休床の影響が及ばないよう、関係機関の協力・理解を得ている。 枝幸町国民健康保険病院においては、令和5年10月1日より回復期46床から60床、慢性期37床から23床へ転換している。
R6	130床	46床	市立稚内病院においては、休止病棟(5階北39床)及び休止病床(6階23床)の廃止検討、市立稚内こまどり病院(45床)においては、今後の医療提供体制について検討中である。 枝幸町国民健康保険病院においては、令和6年7月より慢性期(療養病棟)23床を休床としている。	市立稚内病院においては看護師不足のため、令和7年4月に病棟再編成を行う予定。市立稚内こまどり病院においては、地域医療全体に休床の影響が及ばないよう、関係機関の協力・理解を得ている。 猿払村国民健康保険病院においては、適正な医療のあり方を検討した結果、病床機能を転換し、有床診療所及び介護医療院を令和7年4月より開設することとした。 枝幸町国民健康保険病院においては、1病棟体制による人員配置の適正化により、入院基本料の単価の向上を図る。

4 在宅医療等の確保対策

(1)在宅医療等の必要量

区 分		2018年 (H30)	2019年 (R1)	2020年 (R2)	2021年 (R3)	2022年 (R4)	2023年 (R5)	2024年 (R6)	2025年 (R7)		
医療計画 (地域医療構想)	在宅医療等								692人		
	訪問診療								162人	175人	183人
	地域医療構想掲載ベース(a)								21人	37人	52人
	新たなサービス必要量(b)								183人	212人	235人
	計(a+b)										

(2)訪問診療を実施している医療機関数

区 分	H30 (H28数値)	R1 (H29数値)	R2 (H30数値)	R3 (R1数値)	R4 (R2数値)	R5 (R3数値)	R6 (R4数値)	R7 (R5数値)
施設数	10	9	9	8	11	12	12	
人口10万対	14.9	13.6	13.9	12.7	17.8	19.9	19.9	

※厚生労働省NDB(ナショナルデータベース)

※NDBIによるデータ掲載が困難な場合はKDB(国保データベース)によるデータを掲載。ただし、その場合は欄外に注釈を掲載

(3)在宅医療等の確保対策のスケジュール

確保対策	スケジュール									
	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	
地域医療介護総合確保基金の活用 (在宅医療提供体制強化事業)										
宗谷保健医療福祉圏域連携推進会議在宅医療専門部会(多職種連携協議会)による在宅医療・介護連携・地域包括ケアシステムの推進										

5 地域(市町村)における取組

(1)医療と介護が連携した地域包括ケアシステムの構築に向けた基本的な考え方

市町村名	「在宅医療・介護連携推進事業」の実施内容等について
稚内市	医療及び介護従事者等で構成される稚内市在宅医療・介護連携推進事業検討会を設置し、地域啓発、口腔ケア、入退院等支援、看取り・急変のワーキングチームに分かれ地域課題の抽出や連携が推進するための活動を行っている。 具体的には、地域啓発では、市民向けに在宅医療や介護の連携に関する取組みについてのパネル展示や動画の作成・上映を行った。口腔ケアは、地域啓発と合同でパネル展示の他、口腔ケア講演会の開催協力をしている。 入退院等支援は、医療・介護従事者向けの情報通信紙の発行とツールの更新として連携手帳の実証実験を実施。令和6年度から在宅療養の4場面を強化するため看取り・急変時の対応について現状の把握や課題抽出を全体会及びチームで行っている。 その一環として、令和6年度多職種研修は救急をテーマに開催した。今後も、これらの取り組みを継続し、市民に対する在宅療養についての周知と専門職の資質向上や医療と介護の連携の仕組みづくりを推進していく。
猿払村	地域包括ケアシステムの構築と地域医療構想の推進を図るため、年度ごとに各部署連携して取り組みを進めている。 令和3年度は病院長・看護師・村長・副村長・各施設の代表者などが初めて一堂に会し、今後の方向性などを話した。 令和4年度は病院が中心となって有床診療所の検討と介護医療院の開設を考え、道内を視察した。 令和5年度は介護医療院や有床診療所について議会常任委員会や介護保険計画策定委員会の中で協議・検討した。 令和6年度は村内各地区に回り有床診療所19床と介護医療院4床を令和7年4月1日から開設する説明をした。

浜頓別町	地域包括ケアシステムの構築及び地域医療構想の推進を図るため、地域ケア会議の開催による医療・介護・福祉の情報共有や連携の他、認知症地域支援推進員を配置し、高齢者の認知症予防や介護予防に取り組んでいる。 また、地域の実情に合ったテーマで継続的に多職種連携研修会の開催を通して在宅医療、介護サービスの体制の構築を推進し、高齢者が住み慣れた地域で自分らしい暮らしを続けられるよう取り組んでいく。
中頓別町	中頓別町版「地域包括ケアシステム」構築により、国保病院に介護医療院を併設し、高齢者に医療と介護が一体となったサービスを提供し、特別養護老人ホームの重度入所者を受け入れ、特別養護老人ホームも養護老人ホームで介護度が高い入所者を受け入れながら、それぞれの施設の持つ役割や機能を発揮できるようすすめている。さらに在宅事業を町に移管し、これまで行き届かなかった休日のサービスを提供しながら在宅でも安心して生活できる支援を構築していく。
枝幸町	地域包括ケアシステムの構築を図るため、ケア会議や医療・介護連携システム(メルタス)において情報共有を図り、在宅医療と介護サービスの充実に努めている。 また、医師や薬剤師、看護師、理学療法士など、日頃から医療に携わる方が、高齢者の多様な課題に効果的、効率的に取り組んでいくことを目的に、「医療専門職会議」を設置した。 医療の専門職などが一堂に会し議論することでつながりを持ち、共通の認識で多様な課題に取り組んでいけるよう進めている。
豊富町	地域包括ケアシステムについては、地域医療構想との整合性を図り診療所や介護事業所・地域包括支援センターと連携し、成年後見制度促進計画も含め総合的な在宅医療・介護サービスの提供体制の構築を推進する。
礼文町	離島という地域特性を踏まえた地域包括ケアシステムの構築を図るため、平成28年度より在宅医療・介護連携推進事業を実施しており、今後多職種連携研修の開催を通じて、在宅医療・介護サービスの体制構築を推進していく。
利尻町	町内の介護保険サービス事業所のネットワークでつないでおり、よりタイムリーに情報連携できるようにしている。さらにこのシステムを活用させるため、改善すべき内容の共有を図っている。 また、各サービス機関から在宅医療と介護連携に関する課題を吸い上げ、次年度に向けた取り組みを整理している。
利尻富士町	地域包括ケアシステムの構築を図るため、医療・介護者の関係者が共通認識のもとに取り組んでいけるよう、地域ケア会議や研修会等の開催により更なる体制の推進を図る。
幌延町	高齢者が住み慣れた地域で、その能力に応じて自立した日常生活が送られるよう、町民の多様な活動を促進するとともに、地域包括支援センターの機能とネットワーク体制の強化を図り、医療、介護、予防、住まい、生活支援について、地域の実情に応じた地域包括ケアシステムの構築を目指す。

(2) 高齢者の住まいの確保

市町村名	取組目標		取組目標に対する達成状況
	年次	内 容	
猿払村	未定	共生型住宅建設を計画(戸数未定)	高齢者を対象とした公営住宅が病院の近くに16戸あり、当面は充足していると判断。
浜頓別町	R6	町営住宅の建設(高齢者にも提供)	住生活基本計画に則り住宅を整備。(令和6年度改訂)
中頓別町	未定	「多様性のある住宅」の整備	
枝幸町	R4	町営住宅の建設(高齢者にも提供)	単身向け2戸、世帯向け2戸を建設(一般、高齢者等の限定なし)
	R5	町営住宅の建設(高齢者にも提供)	世帯向け4戸を建設(一般、高齢者等の限定なし)
	未定	町営住宅の建設(高齢者にも提供)	
豊富町	未定	町営の高齢者住宅建設予定	
礼文町	未定	高齢者に配慮した町営住宅の建替え	
利尻町		高齢者に配慮した既存町営住宅の整備	
幌延町		高齢者に配慮した既存町営住宅の整備	

(3)その他医療・介護従事者の確保等

市町村名	対象職種	取組内容	期待される効果等
稚内市	医師(医療法人)	稚内市に診療所を開設する開業医に対し、診療所開設に係る費用等の助成及び貸付	医師の確保
	医師・看護師等	市立稚内病院での医歯大学学生等の研修、実習等の積極的な受け入れ	学生の段階から宗谷の医療を肌で感じてもらい、地域医療へ関心を持ってもらう
	看護師等の医療従事者	修学資金の貸付け(月額6万円～、貸付期間分、市立稚内病院での勤務(2年以上))	医療技術者の人材確保
	保健師	特別貸付金の貸付け(他機関から修学に必要な資金の貸付けを受けている者に就業時一括480万円以内、本市の保健師として在職期間が36～48月に達したとき返還が免除。)	保健師の確保
	介護従事者	介護人材確保・育成検討会の設置(R3.11月～) 介護職員初任者研修実施事業(市が初任者研修を主催。受講料を一部補助。) 外国人介護人材育成支援事業(東川町の外国人介護福祉人材育成支援協議会に加入。奨学金を給付し、外国人介護福祉士の養成を行う。)	市と介護事業所等の連携強化 介護の魅力発信 介護従事者の確保
猿払村	保健師・看護師・その他医療従事者 歯科衛生士を追加	修学資金の貸付け(養成機関の在学期間、月額10万円以内)	保健師・看護師などの確保
	介護福祉士	修学資金の貸付け(養成機関の在学期間、月額10万円以内)	福祉技術者の確保
	介護従事者	令和4年4月には修学資金貸付者2名を小規模多機能型居宅介護施設に採用した。 また令和元年9月に東川町の外国人介護福祉人材育成支援協議会に加入し、令和3年4月に村内の特別養護老人ホームに男女2名を採用し現在も動めています。 さらに令和8年度に1名採用を予定しています。	介護従事者の人材確保
浜頓別町	保健師・看護師	修学資金の貸付け(月額10万円) 就業時一時金の貸付け(就業時に100万円、勤続5年と10年で50万円。看護師・准看護師のみ)	保健師・看護師の人材確保
	医療従事者(看護師・准看護師・診療放射線技師・臨床検査技師・薬剤師)	就業時一時金の貸付け(就業時に100万円、薬剤師は200万円、勤続5年で50万円、10年で50万円)	医療従事者の確保
	介護従事者	外国人福祉人材育成支援協議会に加入(町内の事業所等に勤務)	介護従事者の確保
中頓別町	看護師・保健師	養成費用(月額10万円)	新規従事者の確保
	介護従事者	外国人福祉人材育成支援協議会に加入	介護従事者の確保
枝幸町	医療技術者(看護師等)	修学資金及び就業時一時金の貸付け(町内の事業所等に勤務)	新卒者及び経験者等の有資格者の確保
	社会福祉士	修学資金及び就業時一時金の貸付け(町及び包括支援センターに勤務)	新卒者及び経験者等の有資格者の確保
	介護福祉士	修学資金貸付制度(町内の事業所等に勤務)	新卒者等の有資格者の確保
		外国人介護人材育成支援奨学金給付制度(町内の事業所等に勤務)	外国人介護人材の育成確保
豊富町	看護師・保健師	修学資金の貸付け(月額10万円以内、3年以上貸付期間分を町立医療機関に勤務) 就業準備金の貸付け(就業時一括60万円以内、3年町立医療機関に勤務) 特例貸付金の貸付け(他機関からの修学資金貸付を受けている者に就業時一括480万円以内、3年以上他機関からの借入期間分を町立医療機関に勤務)	保健師・看護師の人材確保
	介護福祉士	外国人介護福祉人材育成支援協議会に加入し、外国人介護福祉士の養成を行う。	介護福祉士の人材確保
礼文町	医師・歯科医師	修学資金の貸付け、就業支度金に貸与	医師・歯科医師の就業確保
	保健師・看護師等医療技術者	修学資金の貸付け、就業支援金の貸与(金額は職種により異なる)	医療技術者の就業確保
	社会福祉士・介護福祉士等福祉系技術者	修学資金の貸付け、就業支援金の貸与	福祉系技術者の就業確保
	外国人介護福祉人材育成支援協議会(事務局:東川町)に町と施設が加入している。	外国人介護福祉人材育成支援協議会(事務局:東川町)に町と施設が加入している。	福祉系技術者の就業確保

利尻町	医療技術者等	修学資金の貸付け(入学支度金30万円以内、月額10万円、貸付期間を町内の公的医療機関等に勤務で返済免除) 医師及び歯科医師は、入学支度金50万円以内、月額15万円以内、教材購入費100万円以内	優秀な医療技術者等を育成し、医療・福祉・介護等の充足を図る
	医療技術者等	就業一時金の支給(30万円以内)	優秀な医療技術者等を育成し、医療・福祉・介護等の充足を図る
利尻富士町	看護師	修学資金の貸付け(月額15万円、免除:3年以内に従事)	新卒看護師の就業確保
	介護福祉士	外国人介護福祉士人材育成支援協議会への参画(R6~) 介護職員住宅整備事業(R6~)	2年修学後のマンパワーに期待している。
	医療従事者	就労奨励金の交付(医師等5,000千円(勤務期間1年終了1,500千円、勤務期間2年終了1,500千円、勤務期間3年終了2,000千円)、保健師等1,000千円(勤務期間1年終了300千円、勤務期間2年終了300千円、勤務期間3年終了400千円)、介護福祉士等500千円(勤務期間1年終了150千円、勤務期間2年終了150千円、勤務期間3年終了200千円))	将来の地域医療を担う医療従事者の確保
幌延町	保健師	医療職員養成修学資金貸付(月額10万円、貸付期間分を町職員として勤務)	新卒保健師の就業確保
	看護師	医療職員養成修学資金貸付(月額10万円、貸付期間分を町職員として勤務)	新卒看護師の就業確保
利尻島 国民健康保険 病院組合	医療の有資格者	就労奨励金の交付(1,000千円を上限とする。但し、年齢が50歳以上の者は、500千円を上限とする。3年以上勤務により免除)	医療従事者の確保

6 地域住民への広報活動

実施日	広報の種類	実施地域等	実施内容	対象人数・部数
H27~	宗谷総合振興局のホームページ	—	宗谷総合振興局保健環境部保健行政室のホームページに地域医療構想調整会議の議事録等を掲載	—

7 調整会議における協議等

(1) 協議の状況

開催日	親会・部会の別	協議・報告事項	協議等の結果
令和6年5月14日	親会 (書面開催)	・市立稚内病院の特定労務管理対象機関の指定に係る地域の医療提供体制等との整合性について	・承認
令和6年6月26日	親会 (オンライン併用開催)	・地域医療構想等に関する説明会 ・地域医療構想推進シート令和5年度について ・紹介受診重点医療機関について ・北海道医療計画宗谷地域推進方針令和5年度進捗状況 平成30年～令和5年度評価について ・宗谷保健医療福祉圏域連携推進会議専門部会 令和5年度開催状況について ・北海道医療計画宗谷地域推進方針の策定等について ・北海道健康増進計画すこやか北海道21を推進するための宗谷圏域健康づくり事業行動計画の策定について	・地域医療構想説明会に係る説明、報告 ・令和5年度地域医療構想推進シートに係る報告 ・紹介受診重点医療機関に係る報告 ・北海道医療計画宗谷地域推進方針令和5年度新得状況及び平成30年～令和5年度の評価に係る報告 ・宗谷保健医療福祉圏域連携推進会議各専門部会 令和5年度開催状況の報告 ・北海道医療計画宗谷地域推進方針の策定に係る報告 ・北海道健康増進計画すこやか北海道21を推進するための宗谷圏域健康づくり事業行動計画の策定に係る報告
令和6年8月28日	親会 (書面開催)	・北海道医療計画宗谷地域推進方針(案)について ・北海道健康増進計画すこやか北海道21宗谷圏域健康づくり事業行動計画(案)について	・北海道医療計画宗谷地域推進方針(案)に係る報告、承認 ・北海道健康増進計画すこやか北海道21宗谷圏域健康づくり事業行動計画(案)に係る報告報告、承認
令和6年9月17日	親会 (オンライン併用開催)	・次期、「北海道医療計画宗谷地域推進方針」(案)について ・次期、「北海道健康増進計画すこやか北海道21を推進するための宗谷圏域健康づくり事業行動計画」(案)について ・猿払村国民健康保険病院の病床機能等の変更について	・次期、「北海道医療計画宗谷地域推進方針」(案)に係る報告、承認 ・次期、「北海道健康増進計画すこやか北海道21を推進するための宗谷圏域健康づくり事業行動計画」(案)に係る報告、承認 ・猿払村国民健康保険病院の病床機能等の変更についての報告
令和7年2月6日	親会 (書面開催)	・猿払村国民健康保険診療所の救急診療所の申し出について ・宗谷高齢者保健医療福祉圏域連携推進会議の開催結果について	・猿払村国民健康保険診療所の救急診療所の申し出についての報告 ・宗谷高齢者保健医療福祉圏域連携推進会議の開催結果報告
令和7年3月26日	親会 (書面開催)	・地域医療構想推進シートの更新について	・地域医療構想推進シートの更新について

(2)「公立病院経営強化プラン」の進捗状況

病 院 名	プランの概要(地域医療構想関係)	プランの進捗状況
市立稚内病院 市立稚内こまどり病院	○市立稚内病院経営強化プラン	○策定済み(市立こまどり病院については今後の医療提供体制について検討中であるため未策定)
猿払村国民健康保険病院	○二次医療圏の基幹病院が遠方にあり、一次医療機関として果たす役割は重要である。 ○在宅医療については、24時間体制で効率的及び的確にサービスを提供するため、令和7年4月より新たに訪問看護ステーションを設置する。また、関係機関等と連携し、高齢者にとって医療と隙間のないサポートを継続する。	○村唯一の医療機関として、急性期からや慢性期の疾患に対して必要な医療を提供している。 ○令和7年4月より病床機能を転換し、有床診療所・介護医療院を既存の施設で開設をする。また建物自体の老朽化が進んでいることから、現在、役場横断的にWGを立ち上げ、建替を含む候補地の跡地利用について検討している。 ○在宅医療については、これまで同様、地域包括センターや、介護サービス事業者等と情報共有し、在宅による支援の充実を図っている。 ○病院経営の効率化に向けた取り組みを検討し、令和6年度から4年間の公立病院経営強化プランを策定した。
浜頓別町国民健康保険病院	○町内唯一の入院機能を提供する医療機関として、外来診療、入院病床、出張診療や救急医療等の現行体制を堅持する。 ○在宅医療、訪問診療、夜間診療の継続実施や、介護保険事業としての訪問診療、居宅介護支援も継続するとともに、通所リハビリテーション事業の強化を図る。 ○令和7年春の開院を目指している新病院建設事業は、経営の効率化も含めてさらに検討するとともに、医療機器の更新については新病院建設事業を見据えた更新計画とする。	○令和5年度末策定に向け、コンサルタントを活用し総合的な検討を行い、素案の取りまとめを行っている。 ○経営の効率化に向けた具体的な取り組みをさらに検討し、数値目標を設定する。 ○新病院建設事業は、令和5年7月に工事着工し、令和6年度中に完成予定となっている。
中頓別町国民健康保険病院	○地域包括ケアシステム構築のための訪問看護の体制を強化し、退院支援及び日常の療養生活の支援体制を推進する。	○病床機能の転換を実施しており、入院患者等へのリハビリ医療の提供体制が整ったことから、介護予防支援事業所や令和2年度より居宅介護支援事業所との更なる連携の強化を図りながら、予防医療を含め取り組んでいる。また、平成30年度より通所リハビリテーションを開設し、地域包括ケアの充実に積極的に取り組んでいる。 ○地域医療提供体制と地域包括ケアシステムの構築について、病院運営委員会と中頓別町保健福祉審議会への諮問・答申を受け、病院の病床の削減と介護医療院の併設を行った。
枝幸町国民健康保険病院	○1病棟体制にすることでの人員配置の適正化・効率化をはじめ、医業収益の確保を図る。	○1病棟体制による人員配置の適正化により、一般病棟では特別入院基本料の算定が解消し、入院料等の単価の向上を図る。 ○令和6年度の診療報酬改定への対応として、生活習慣病管理料2の算定を開始し、外来収益の向上を図る。 ○その他、地域医療連携室の強化による施設基準の取得や経費削減に向けた取り組みを検討中。
利尻島国保中央病院	○島内唯一の入院機能をもつ医療機関として急性期～回復期～慢性期への対応及び感染症対策に備えた取り組みを図る。 ○在宅医療に係る「退院支援」、「急変時の対応」、「看取り」等の訪問看護や訪問リハビリテーションの連携を図る。	○病床機能の再編については、病院建替えが前提となるが、令和6年度のスプリンクラー設備設置にともないスプリンクラーの耐用年数を考慮すると8年後以降の建替えとなるため長期的な視点で検討する。 感染症対策については、モバイルクリニックを活用した発熱外来を維持しており、島内外のすべての外来患者、および、入院患者の受け入れを実施している。また、市立稚内病院と感染症対策に係るカンファレンスを定期的に実施している。 ○在宅医療に関する内容については、令和5年より実施しており、令和6年も継続している。

(3)「公的医療機関等2025プラン」の進捗状況

病 院 名	プランの概要	プランの進捗状況
—	—	—

(4)二次医療圏を越えた広域的な協議

開催日	協議の相手方	協 議 事 項	協 議 の 結 果
—	—	—	—

(5)圏域内のすべての医療機関(病院及び有床診療所)の参画又は情報共有に係る取組

区 分	対 応 内 容
調整会議(親会・部会)に参加	調整会議に参画していない医療機関(病院・有床診療所)について、必要に応じて会議に参加し情報共有を図っている。
説明会の開催(情報共有)	調整会議に参画していない医療機関(病院・有床診療所)を含め、広く関係機関を参集し、情報共有を行うとともに、意見を聴取している。
その他	

(6)病床機能報告制度に係る取組

区 分	目 的 等	調整会議への報告、議論の状況
未報告医療機関の解消	医療法に基づく報告義務に関する周知	未報告等医療機関に対して、保健所から個別に通知。
病棟の医療機能(病床機能報告の報告内容)の取れん	病棟の医療機能が毎年変化することのないよう周知	調整会議等において説明。
2025年に向けて、過剰な医療機能に転換を予定する医療機関への対応	構想の推進に支障のある病床転換を行わないよう周知	調整会議等において報告し、協議を行っていく。

(7)地域で不足する外来医療機能の確保に係る取組

地域で不足する外来医療機能	現状・課題	取組状況
初期救急	<ul style="list-style-type: none"> 各医療機関においては、常勤医が不足しており初期救急医療への対応体制の確保に苦慮している。 稚内市内においては、休日夜間救急センターはなく、また、医師会による在宅当番医制も実施していないことから二次救急医療機関である市立稚内病院が初期救急医療に対応しているため負担が大きくなっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 医師等医療従事者の確保に努めている。 地域住民に対し、救急車の適切な利用等について普及啓発を行っている。
在宅医療	<ul style="list-style-type: none"> 宗谷地域では、在宅医療を実施している医療機関は複数あるものの、在宅療養支援病院はなく、また、在宅療養支援診療所は1施設のみとなっている。さらに、訪問看護サービスを受けられない地域が1町あるなど在宅医療に係る資源が不足している。 在宅医療を担う医師をはじめとする医療従事者の確保が必要となっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 多職種による医療介護連携に係る協議会の開催 医療機関と地域包括支援センターとで入院支援に係る協議を実施 地域における在宅医療提供体制の整備を図るため、地域医療介護総合確保基金による支援を実施している。

8 本年度の取組に関する評価(課題)及び今後の方向性

区 分	評 価 (課 題)	今後の方向性
将来的に不足する医療機能の確保	令和5年度については、不足する医療機能(回復期)への病床転換は14床であった。	引き続き、過剰となっている病床機能からの転換を促し、地域医療介護総合確保基金等の有効活用により、必要な病床の確保を図る。
医療機関の再編統合等	民間医療機関と連携、後方支援病院として連携している医療機関もあるが、現時点では医療機関の再編・ネットワーク化について予定している医療機関はない。	2025年における各機能区分ごとの必要病床に基づき、病床機能の分化に向けた協議を進め、切れ目のないバランスのとれた医療提供体制を構築する。
ICTを活用した地域医療情報連携ネットワークの構築	一部医療機関において、上川北部医療連携ネットワーク(ポラリスネットワーク)への参加による患者情報の共有化が図られている。	ポラリスネットワークの参加医療機関を拡大する等、ICTを活用しながらネットワークの構築を図る。
非稼働病床(病棟)への対応	市立稚内病院においては62床、市立稚内こまどり病院において45床、枝幸町国民健康保険病院においては23床が看護師等医療従事者不足等のため非稼働病床となっている。	病床再稼働、廃止の時期や将来不足が見込まれる医療機能への転換等について、調整会議において報告、検討する。
在宅医療等の確保	地域医療介護総合確保基金による在宅医療提供体制の整備を行っているが、訪問看護サービスを受けられない地域が1町ある。 また、在宅医療を担う医師等の医療従事者の確保が必要となっている。	今後、医師や看護師等の医療・介護従事者の確保とともに、医療機関や関係団体等の連携、地域住民の在宅医療に対する理解の促進のための普及啓発を図る。
地域における取組(高齢者の住まいの確保等)	共生型住宅の建設や介護サービスに依存しない「多様性のある住宅」の建設などの設計が進められている。	高齢者向け住宅やサービス付き高齢者住宅の整備を進めるなど、高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らすことができる環境の整備を図る。
地域住民への広報活動	地域医療調整会議における協議事項や開催結果等についてホームページに掲載し、周知を行っている。	引き続き、ホームページ等の活用により、地域住民へ幅広く周知を行う。
「公立病院経営強化プラン」の策定・進捗状況	各医療機関においてプランを作成し、医療機関の連携や機能分担、地域包括ケアシステムを踏まえた在宅医療の充実等について取組を進めている。	引き続き、プランの進捗状況等について、調整会議等で情報共有を図る。
「公的医療機関等2025プラン」の進捗状況	—	—
二次医療圏を越えた広域的な協議	当圏域の救急患者等を受け入れている上川北部地域等との連携が必要である。	上川北部地域等との連携について検討する。
全医療機関参加型の調整会議の運営等	地域医療構想説明会を実施した。	今後とも、病床機能報告制度に係る報告内容等について医療機関へ周知する。
病床機能報告制度に係る取組	全医療機関において報告されている。	今後とも、病床機能報告制度に係る報告内容等について医療機関へ周知する。
地域で不足する外来医療機能の確保に係る取組	訪問看護サービスを受けられない地域が1町あるなど在宅医療に係る資源が不足している。 一部の診療科においては専門医の不足、不在が生じている。	多職種による医療介護連携の推進を図るとともに、地域医療介護総合確保基金を活用しながら在宅医療提供体制の整備を図る。 公立医療機関において不足している専門医について、地域医療支援センターや北海道医療対策協議会等からの医師派遣の要望を継続する。

年度	令和6年度
区域名	宗谷

構想区域内における医療機関の対応方針

No.	区分		医療機関名	所在市町村	紹介受診重点医療機関	2025年に持つべき医療機能ごとの病床数(許可病床ベース)																				2025年を見据えた役割(R6意向調査)
	病院	診療所				R5年7月1日時点(R5病床機能報)					2025年(R6意向調査)					増減										
						高度急性期	急性期	回復期	慢性期	その他	計	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	その他	計	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	その他	計			
1	○		市立稚内病院	稚内市			219				39	258		196			62	258	0	▲23	0	0	23	0	①	
2	○		市立稚内こまどり病院	稚内市							45	45					45	45	0	0	0	0	0	0	⑤	
3	○		医療法人禎心会稚内禎心会病院	稚内市			50			60		110		50			60		110	0	0	0	0	0	①	
4	○		猿払村国民健康保険病院	猿払村			28					28		19				19	0	▲9	0	0	0	▲9	②	
5	○		浜頓別町国民健康保険病院	浜頓別町					40			40				40		40	0	0	0	0	0	0	②	
6	○		中頓別町国民健康保険病院	中頓別町					20			20				20		20	0	0	0	0	0	0	③	
7	○		枝幸町国民健康保険病院	枝幸町					46	37		83				60	23		83	0	0	14	▲14	0	0	②
8	○		利尻島国保中央病院	利尻町			42					42		42				42	0	0	0	0	0	0	②	
9		○	クリニック森の風	稚内市			19					19		19				19	0	0	0	0	0	0	②	
10		○	豊富町国民健康保険診療所	豊富町			19					19		7	12			19	0	▲12	12	0	0	0	③	
11		○	礼文町国民健康保険船泊診療所	礼文町					19			19				19		19	0	0	0	0	0	0	③	
12		○	幌延町国民健康保険診療所	幌延町			4			15		19		4		15		19	0	0	0	0	0	0	④	
計						0	381	125	112	84	702	0	337	151	98	107	693	0	▲44	26	▲14	23	▲9			

※「2025年を見据えた役割」について、番号が示す内容は以下のとおり。(当該医療機関の主たる役割に最も近い記述を1つ選択)

- ①: 救急患者の受入れや手術など、高度・専門医療を中心とした急性期医療を担う
- ②: 近隣の高度・専門医療を提供する医療機関と連携しつつ、救急患者の初期対応や比較的症状が軽い患者に対する入院医療等の急性期医療を担う
- ③: 近隣の高度・専門医療を提供する医療機関と連携しつつ、急性期経過後のリハビリテーションを担う
- ④: 長期にわたり療養が必要な患者に対する入院医療を担う
- ⑤: かかりつけ医としての役割や在宅医療における中心的な役割を担う

6事業